



院内感染対策だより 第55号 R4. 3. 28

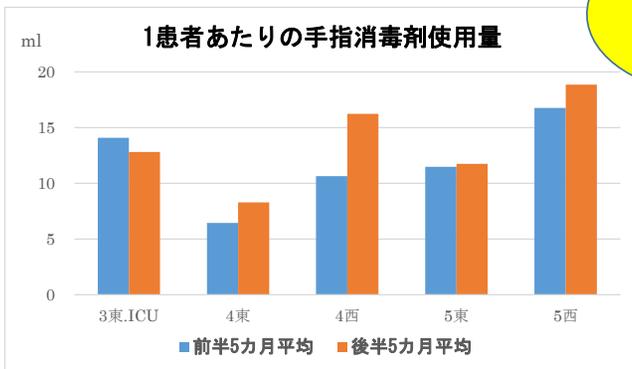
手指衛生してありますか？

看護部 感染呼吸リンクナース会での手指消毒推進活動紹介

私たちの「手」は様々な人や物に頻りに触れています。そのため微生物にとっても伝播のための便利な道具です。新型コロナウイルスの感染経路にも「接触感染」がありウイルスが付いた環境や陽性患者の口から飛び出した飛沫などに触れることで感染が起きます。その伝播を防ぐために手指衛生を行うことはとても重要です。手指衛生遵守率と医療関連感染の発生率低下には相関関係があるという研究報告が多数あり、手指衛生が感染対策には有効であることが証明されています。病院ではアルコール含有擦式手指消毒剤を使用した手指衛生が主流となっていますが擦込量が少ないと完全に殺菌することはできません。十分な液体量を必要なタイミングで使用することが重要です。

看護部 感染呼吸リンクナース会での取り組み

看護場面での手指消毒のタイミングをスタッフにアプローチし、月1回の使用量の測定を行っていました。しかし、使用量はなかなか増加しない現状でした。そこでリンクナース会にて話し合い2021年12月より勤務毎に各自で使用量を測定し記載する方法に変更しました。リンクナースは記載忘れのスタッフに声掛けすることや朝のミーティングで正しい手指消毒の方法を実演するなどして啓発を行いました。すると、手指消毒剤の使用量が各部署で上昇しました。各自が勤務終業時に使用量を測定する事で、あまり手指消毒が実施できていないことを自覚したり、5つのタイミングで実施できているのか考えたという意見もあり、自分の手指衛生を振り返る機会にもなりました。



手指衛生回数が少なかったことがわかった

タイミングを意識するようになった

私立医科大学病院の手指消毒剤使用量調査ではまだまだ当院の手指消毒剤使用は少ないため、今後も適切な手指衛生を実施できるよう取り組んでいきます。

手指衛生優秀者部署発表

< 選考基準 >

★ 4～8月(5カ月)と9月～1月(5カ月)間を比較

- ①病棟:使用量の増加率が高い病棟(2か所)
- ②外来(血液浄化・外来・手術室):払出量増加率が高い部署(1か所)
- ③看護部以外の部門:払出量増加率が高い部署(2か所)

部署	理由
4階西病棟	使用量増加率 1.52 倍 : 病棟 1 位
4階東病棟	使用量増加率 1.29 倍 : 病棟 2 位
5階西病棟	ICT 特別賞
栄養部	払出量 1.80 倍: コメディカル 1 位
血液浄化センター	払出量 1.49 倍: 看護関係病棟外部署 1 位
耳鼻咽喉科	払出量 3.33 倍: 外来関係 1 位
胸部心臓血管外科	払出量 2.95 倍: 外来関係 2 位
発熱外来	ICT 特別賞



4階西病棟



4階東病棟

病院での空調について

当院のような大型施設では自然換気が十分に実施されず CO2 濃度が高くなりやすいため、機械換気が採用されています。機械換気により、外調機にて外気の温湿度を調節し、室内へ送り込むとともに、排気を一定量実施することにより、室内には新鮮な空気が存在しています。しかし、湿度を調整していない外気が室内に入ると機械換気により保たれていたバランスが崩れ、空調設備に負荷がかかるとともに、カビや乾燥の発生原因となります。

湿度については、夏の温かい空気を冷やすと湿度は高くなり、冬の冷たい空気を温めると湿度は低くなります。よって、夏にカビが発生しやすく、冬は乾燥しやすいこととなります。外調機の加湿除湿機能を働かせていますがこれだけでは調節が難しい現状です。そこで皆様に適切な湿度コントロールが働くよう以下のように協力をお願いします。

夏季(冷房)	冬季(暖房)
①機械換気以外で外気をなるべく入れない。	①風向きをなるべく下向きに設定する。
②風向きを水平より一段下に設定する。	②必要以上に設定温度を上げない。
③必要以上に設定温度を下げない。	

※汚物臭等で強制換気する必要がある場合は数分程度窓を開けて、その後必ず閉める。

